

2024年度 学校アクションプラン

2024年度 富山北部高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習習慣の確立と授業力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の進路に明確な目標を持つ時期が遅い。また、生徒の進路希望が幅広く多岐にわたっている。 ・ 予習復習を中心とした家庭での学習が習慣化されておらず、基礎学力や知識が不足している。学習に対しての取り組みが不十分である。 ・ 生徒1人1台タブレットPCが配備され、より一層 ICT 機器を活用した効果的な授業法を研究していかなければならない。ICT を活用した授業が増えているが、そのノウハウを教職員間で共有していく必要がある。 	
達成目標	① 家庭学習習慣の確立	② 授業力向上
	① 学習実態調査で家庭学習を2時間以上行う生徒の割合が70%以上。	② 年間2回以上、互見授業に参加する。ICT を活用した授業研究に取り組み、互見授業や研修会等を実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習・生活実態を把握するため、記名式の調査を年間5回程度行う。また、調査結果を分析し、生徒面談、保護者会、学年集会等をとおして生徒の学習意欲を喚起するとともに、教科、学年、家庭と連携をとりながら効果的な方策をたてる。 ・ 総合的な探究の時間やホームルームを通して自分の将来像を思い描き、必要な学力や技能、資格取得に向かって努力させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互見授業期間を1学期中間考査後と、2学期中間考査後に設定し、授業力向上、授業改善に努める。各自2回以上、互見授業を実施または参観することとする。 ・ ICT 機器を活用した課題提示の内容や方法等について工夫している点を相互に学び合い、各自のスキル向上を図る。 ・ 生徒の進路実現に向けた検討会を行う。

2024年度 富山北部高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、および「自覚と責任」を持たせる生徒指導の充実 ・ 不登校の未然防止と教育相談スキルの向上 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣、交通安全・マナーが身につけていない生徒が見られる。 ・ SNS等の適切な利用、正しい知識が不足している生徒が見られる。 ・ 規範意識の希薄な面があり、「自ら律する」指導を充実させる必要がある。 ・ 不登校傾向の生徒、悩みを抱え、体調不良を訴えて保健室を訪れる生徒が増えている。このような生徒へ対応するために、生徒が心を休められる環境の整備と教職員の生徒理解のための教育相談スキルの向上が求められる。 	
達成目標	① 登校指導による遅刻防止	② 不登校の未然防止 ③ 生徒理解のためのスキルアップ
	① 遅刻者数1日平均0.5人未満(昨年0.7人)(但し、持病や自然災害、交通遅延などによる遅刻を除く。)	② 第2保健室を利用し不登校を未然に防ぐ ③ 教職員対象の研修会の実施(3年間で全教員が受講する。)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着、交通安全意識・マナー、規範意識の向上を目指し全職員一丸となり、登校指導、昼の校内外巡視、頭髪服装指導を実施する。 ・ スマートフォン・インターネット安全教室や交通安全講話、薬物乱用防止教室を実施する。 ・ あらゆる教育活動を通じて、「自ら律する」姿勢を育て、「自覚と責任」を持たせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の居場所がないと感じる生徒には第2保健室の利用を促し、学校への抵抗感を軽減させる。 ・ 各学年との連携を密にし、生徒の実態把握に努めるとともに、研修会を開催し、専門家から生徒理解のためのスキルを学ぶ。また、保健室利用や欠席日数が増加してきた生徒の状態を事前に共有し、生徒の状況を見て適宜カウンセリング等を行う。

2024年度 富山北部高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に向けた進路指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や社会に対する認識が不十分である。 ・将来の職業や生き方について考え、今は何をすべきか先を見通して実践することが難しい。 ・進路目標達成のため、自分で計画して、学習時間や学習量を確保することができない生徒が多い。 	
達成目標	① 進学 進路指導に対する満足度	② 就職 進路指導に対する満足度
	① 95%以上 (3学年1月にアンケートを実施する。)	② 95%以上 (3学年1月にアンケートを実施する。)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の適性や能力を詳細に把握するとともに、生徒自身にも自覚を持たせる。 ・将来設計に基づいた進路指導を行い、的確な進路情報の提供や生徒の学力分析、教員との面談を実施する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・進学ガイダンス・学校見学・企業見学・進路調査・講演会等を通して、進路目標を早期に設定させる。 ・学力の向上に向けて、教科補習、外部模試等を各教科と連携して継続的に実施する。 ・担任を中心とした個別面接を通して進路指導を行うと同時に、教員研修を行い、全教員で面接指導や小論文指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス・学習会を実施し、自己の興味・関心や能力・適性の理解に努め、職業意識を高める。 ・就職試験の準備に早期に取り組むと同時に、内定後も職業人としての意識を高めるよう指導する。 ・教員による会社訪問を通して、卒業生の状況や求人情報の収集に努める。

2024年度 富山北部高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	諸活動を通じ、自ら考え、自ら行動する姿勢の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心や自分に責任があることには積極的に行動するが、周囲のためになる自発的な行動、愛校心や学校をより良くしていこうという意識には、物足りなさを感じる。 ・地域のことについて興味が薄いので、地域での活動に参加を促す。 ・課題解決に本を利用するなどの読書習慣が充分身につけていない。 ・昨年度の一人あたり貸し出し冊数2.58冊（1月末）。前年同期比で0.46ポイント減。 ・昨年度来館者数6160人（1月末）。前年同期比で363人増。 	
達成目標	① 生徒会行事満足度	② 一人あたり貸し出し数及び来館者数
	① 90%以上 (各行事終了後に生徒会のアンケートを実施する。)	② 3.00冊 5000人
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事において、生徒会を中心に一般生徒が積極的に参加できる体制を作り、責任感を持って活動できるよう配慮する。 ・学校行事を通して愛校心を育むよう工夫する。 ・集会時の整列を生徒会やクラス会長を中心に自分達で行い自立を促す。 ・学校主催のボランティア活動をより自主性を持って参加させ、地域の一員であるという意識を持たせる。 ・地域の行事等に部活動の一環として協力するなど、地域の諸活動への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・学年との連携を深め、課題解決学習での図書の利用、進路に関わる図書の利用等図書部のレファレンス機能を向上させる。 ・校内の広報活動の充実や読書環境の整備を積極的に行い魅力ある図書館づくりに努める。図書委員会の活動を充実させ、イベント企画を工夫し参加しやすいものにするなど、一般生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やす。 ・映画、TV等のメディア情報を取り入れるなど生徒の興味関心を調査し、要望などに応えていくことで読書への関心を高める。

2024年度 富山北部高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	学校、保護者、社会における相互の協力と情報共有の促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育友会の活動があまり周知されていないとする指摘が若干の会員から寄せられた。 ・ 共働きやパートなどによる生計の維持の家庭が多かったり、他校のPTA役員を兼ねている家庭があったりすることから、活動を負担と感じている保護者もおられる。 ・ PTA 各行事への一般会員の参加が少ない。 ・ 生徒を通じてPTA 行事の案内をしているが、保護者に届かない場合がある。 ・ 同窓会役員体制が高齢化しており、新高校として新体制を確立する必要がある。 	
達成目標	① 行事や活動の満足度	② PTA会報『いくゆう』の閲覧
	① 参加者の満足度：80%以上 (各行事終了後に保護者のアンケートを実施)	② 全会員の80%以上 (保護者会で直接保護者に配付)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の負担感を少なくするような育友会活動にしていく必要がある。 ・ 役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。 ・ 育友会主催の行事や活動について、参加者の満足度が高くなるように心がけることで、育友会活動に参加することの意義や理解を深める。 ・ 『いくゆう』は読みやすい誌面を工夫し、会員に直接手交する。 ・ 学校のホームページや教育安全メールなどを利用して活動を積極的に発信する。 ・ 同窓会役員会での声かけなどを通じて役員体制を刷新する努力をする。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)